

Stage Up

2006年

3

月号

生涯学習情報誌
ステージ・アップ
通巻 No. 148



岡本一平画「漱石先生」(肉筆漫画開国六十年史図絵)

- もくじ**
- 2 アカデミーの窓
 - 3 まなびの広場
 - 4 特集 インタビュー 大下 勝巳さん
 - 6 藝術・文化ロード
 - 7 まち・ひと・多面体／暮らし百景 五行歌
 - 8 イベントパーク

発行・(財)川崎市生涯学習財団
〈ホームページ〉 <http://www.kpal.or.jp>

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1
TEL 044 (733) 5560(代)/FAX 044 (739) 0085
ステージ・アップ直通 TEL 044 (733) 5811 E-メール: stage-up@kpal.or.jp



かわさき市民アカデミー
一般公開講演会のご案内

●2005年度アカデミー修了式記念講演

日時：3月10日(金) 11時～12時30分

講師：東京大学大学院教授 沼野 充義

『文学は、現代世界をどうとらえようとしているのか』

●時代のニーズによる連続講座「なぜ、NPOなのか」

「特定非営利活動促進法（NPO法）」が1999年3月に成立して以来毎月200ほどの新しいNPO法人が生まれ、市民の力が時代を変えています。

「かわさき市民アカデミー」は、生涯学習による活力ある地域社会の創造を支援して参りました。今回は、新たな活動の形としてのNPOについて学ぶ全4回の講座を設けました。社会参加への新たな道筋を学ぶ場になればと思います。ふるってご参加ください。

①『生涯学習とNPO』

3月14日(火) 午前10時～12時

日本女子大学教授 田中 雅文

かわさき市民アカデミーの情報

②『社会参加からNPO法人の設立まで』

3月15日(水) 午前10時～12時

NPO法人アリスセンター 事務局長 川崎 あや

③『NPOのマネジメント』

3月16日(木) 午前10時～12時

(社)長寿社会文化協会常務理 田中 尚輝

④『NPO法人の制度と設立の手続き』

3月16日(木) 午後1時～3時

神奈川県県民部NPO協働推進室職員

□会場：いずれも川崎市生涯学習プラザ

□参加費：いずれも無料

※希望者多数の場合は抽選になります。連続講座は単発の参加も可能です。

□申し込み：ファックスまたはハガキに希望講演名、住所、氏名、連絡先を記し、下記までお送りください。

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1

かわさき市民アカデミー事務局

問い合わせ ☎ 044 (733) 6626 Fax 044 (733) 6697

講師紹介

パワフルで博識な伊藤先生

「社会の思想Ⅱ」（経済）コース 岡 毅一郎
家での「糞虫」状態から脱却しようと、タイトルに引かれて申し込んだのが伊藤先生の講座でした。

先生はとてもパワフルで博識です。議論百出の自主講座ですが、個性的で一家言を持つ(?)生徒のさまざまな質問にも、たちどころに的確な答えが返ってきます。先生の頭の中の引き出しはいったいいくつあるのだろうか、その博識ぶりに感心します。今、伊藤先生を通じ「学ぶことの楽しさ」を味わっています。

目下、講座では「日本の製造業の空洞化」からはじまり「中国の急激な経済成長の実態、それに伴う様々な問題」を学習しています。遠い国と思っていた中国が身近に感じられ、中国の実態をこの目で見たいと思う昨今です。

先生には、かわさき市民アカデミーの企画委員としても、講座の企画や調整にご尽力いただいています。これからも我々がまな生徒の指導と「生涯学習」の発展のためにお力添えをいただきたいと思っています。

演習・ワークショップの5年間

「社会の思想Ⅱ」（経済）コース 陶山 浩

01年度に先生の演習に参加させていただいてから、その魅力に取りつかれいつの間にか5年が経ちました。この間、戦後日本経済、アメリカ経済、現代ヨーロッパ経済等々を経て、現在はますます存在感を増す中国経済の明と暗について、ご指導いただいているところです。

プロフィール

伊藤 正直 (いとう・まさなお)

1971年、東京大学経済学部卒業。東京大学社会科学研究所、立命館大学経済学部、名古屋大学経済学部を経て、現在東京大学大学院経済学部研究科教授。著書に『世界地図で読む開発と人間』『現代日本経済史』など。



みんなが等しく感じるところは、先生の整理された該博な知識と相手に合わせて懇切で丁寧な説明です。私自身は、常に新しい問題意識を時宜にかなったタイミングで掻き立たせてくださることに、強く惹かれています。欧州経済の勉強の折、60年代の北欧経済社会の世情に触れて、ストックホルムを舞台とする警察小説、マルチン・ベックシリーズをご紹介くださったことなどもありました。

03年度には、先生のご指導の下、演習仲間の論文や随想がそれぞれ「経済論文」「経済随想」として、立派な装丁で刊行の運びとなりました。また、04年度に先生の講座「日本経済論」の一部が、当アカデミーのブックレットに「世界の中の日本経済」として昨年加わったことは、ご承知の方も多々と思います。

春の「スポーツ教室」のお知らせ

春です。緑に囲まれ、寒さで縮んだ体を自由にノビノビと広げ、伸ばす季節がやってきます。

「体の錆を落とし、体の中にも自然を呼び込むために、あんまり無理をしないうで体の内部から鍛えてみよう」

そんなことを目標にして、生涯学習プラザでは屋内スポーツ教室を4月から始めます。自分の体力や生活スタイルに合った教室を見つけ、体を動かし、春を満喫する

教室名	曜日・時間	日程(予定)	受講料
ヨーガ教室A (体操、呼吸法、瞑想法の三つからなるインド五千年の歴史を経た心と体の健康法です)	火曜 13:30 ～ 15:00	4月11日(火) ～ 7月25日(火) 全15回 (4/25は休み)	9,000円
ヨーガ教室B (体操、呼吸法、瞑想法の三つからなるインド五千年の歴史を経た心と体の健康法です)	火曜 15:15 ～ 16:45		
エアロビクス教室 (体を動かしていい汗流してみませんか！健康と若さを保ちながらストレスを解消します)	月曜 10:00 ～ 11:10	4月17日(月) ～ 7月3日(月) 全12回	7,200円
気功太極拳教室※ (中国古来の武術を源とする調身、調息、調心を図る気功健康法です)	火曜 10:00 ～ 11:30	4月18日(火) ～ 7月4日(火) 全12回	7,200円

健康で快適な日々を送りましょう。皆様の申し込みお待ちしております。

※秋(9月)から「気功太極拳教室」は、「気功太極拳中級コース(楊名時太極拳)」も開始します。習得レベルに合わせて得ることができる段位を目標とされる方は春から受講を開始されることをおすすめします。

◆定員⇒各40人(応募者多数の場合は抽選)

◆応募方法⇒往復ハガキに、教室名、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を記し、下記のあて先へ送って下さい。

◆申し込み期間⇒3月6日(月)から3月17日(金)(必着)

◆あて先⇒〒211-0064川崎市中原区今井南町514-1
川崎生涯学習プラザ「春のスポーツ教室」係

問い合わせ 事業推進室 ☎044(733)5894/Fax044(733)6697



ヨーガ教室

情報の宝庫「電子掲示板」

いつでも、どこでも、だれでもという生涯学習社会の中でたくさんの情報があふれています。市民のみみなさまへの公的な情報源のひとつに川崎市公共施設利用予約システム「ふれあいネット」があります。

この「ふれあいネット」は公共施設の予約をすることができるだけでなく、市内のさまざまな生涯学習情報を、提供するためのプログラムが組み入れられています。「施設情報」「講座・催し物情報」「団体・グループ情報」「指導者・人材情報」「電子掲示板」などがあります。「電子掲示板」には、教育文化会館・市民館、保健福祉センターなどの行政施設や行政に関連する団体・NPO法人等が実施する短期の催し物・講座・講演会などの最新情報がいっぱい、まさに情報の宝庫です。情報は音楽、美術、語学、文化・文芸、スポーツ・レクリエーション、生活・趣味などのジャンルに見やすく整理されています。

「ふれあいネット」へのアクセスは、市内44カ所の公共施設に設置された「ふれあいネット」利用者端末機からだけでなく、ご自宅のインターネットに接続されたパソコンからもアクセスできます。是非、一度試してみてください。

また、「電子掲示板」には、市内で活動している団体・グループの催し物・活動情報なども載せることができますので、情報をお寄せください。ご希望の方は、600字以内に内容・連絡先(住所・氏名・電話番号)を明記されて、学習情報室あてお送りください。FAXでも結構です。

「ふれあいネット」へのアクセス方法は、次のとおりです。

アクセス方法

- ①アドレス欄に川崎市ホームページ
<http://www.city.kawasaki.jp/>を入力する
- ②「川崎市ホームページ」の川崎オンライン、「ふれあいネット(施設予約)」をクリック
- ③表示された画面の「ふれあいネット・インターネット入口」をクリック
- ④表示された画面の「ご利用にあたって」「機能説明」「ふれあいネット」の中から「ふれあいネット」をクリック
- ⑤表示された画面の「施設予約」「生涯学習」「利用者情報」の中から「生涯学習」をクリック

問い合わせ 学習情報室 ☎044(233)6250/Fax044(233)2700

財団主催の講座・相談・貸館などの情報

まなびの広場

特集

インタビュー

宮前区長 大下 勝巳 さん

2005年4月、政令指定都市として初めて、民間から大下勝巳さんが宮前区長に就任しました。大下さんは、40代の頃に、奥さんに引っ張られ渋々参加した「父親家庭教育学級」で、仕事では出会えない体験に心を動かされ、仲間と一緒におやじの会「いたか」を結成。これが地域デビューとなり、以来20年にわたり自治会や「川崎おやじ連」、市の市民会議委員などの活動に参加しました。その調整力と実績を買われ「市民の感性と考え方そのまま、何も変わることなく今のままで」と市長から要請され、意を強くしたと言われます。

宮前区のホームページに、自らが活動をレポートする「こんにちは宮前区長です」を開設し、市民区長としてさまざまな発信をしています。「行政が培ってきたものと市民の感性を掛け算して地域課題を解決していきたい」と力強く語る大下さんから、これからの協働のあり方などについて伺いました。



協働と参加を結びつける

——大下さんは、昨年4月に宮前区長に就任されました。民間出身の区長ということで注目を集めました。行政に入ってからどんなことを思いましたか。

大下 企業の場合は商品やサービスを売って利潤を得てそれで成り立っていますが、行政の場合は市民の皆さんの税金ですから、根本のところ違います。公務というものの大変さを身をもって知りました。この緊張感をずっと持ち続けていくことが、公務員として大事です。あらゆることで「これは区民のためになることだろうか」と意識し、自分自身にハードルを設定しながら課題や仕事の進め方を考えています。民間では体験できない世界です。区長になって幹部の皆さんに「私の持っている市民の感性・力と、皆さん方がこれまで培ってきたプロの行政マンとしての仕事の仕方を掛け算すれば、今までにないものが生まれるに違いない。新しい発想で仕事をして区民に返していこう」と話しました。

——区役所に入られて驚いたことはありますか。

大下 内側から見て、そうだったのかと思ったことの一つは、台風や大雨の時に、職員が区役所に泊り込み、警戒に当たっていることです。川崎市民になって30年経つのに初めて知りました。「災害対策警戒本部」を設置して、関係機関と連絡をとりながら、道路に水があふれていないか、土砂崩れはないか、区内を夜通し車で回っているんですね。こういうことはあまり報道されませんので全く知りませんでした。それか

ら、選挙の開票作業に立ち会った時も驚きましたね。約32万もの投票用紙を3時間弱の間に350人の職員が黙々と開票し分類していました。一連の作業を行う集中力と機動力、そして統括力が実に見事でした。

——区のホームページで「こんにちは宮前区長です」というコーナーを見えています。区長として参加された催しや活動について、ご自身が感じたことを率直に書いていますね。

大下 ホームページでは、行事に参加した報告だけではつまらない、市民としての目にどう映ったのか、そこを書いていくのが大事なことだと思っています。市民の方に見ていただくのはもちろんですが、職員も見て「市民の感じ方や受け止め方ってこうなんだ」ということを理解してもらいたい。そうすることによって、仕事を掛け算していくための素地ができるのではないかと考えています。

——これまでは市民活動をしている立場でしたが、区長として市民活動をご覧になってどういうふうに感じますか。

大下 市民団体が自分たちの考え方を主張するのは当然としても、できればそれにパブリック（公共）な部分をプラスして考え、発言していくことが大切です。市民団体がそれぞれに自分たちの主張を言い合うだけだと、全体が一つの方向に合意していかない。地域の合意を得る力、合意を創り出していく力がこれからの市民活動には必要だと思います。

自分の経験や知識を生かしてできることをやるのが市民活動の第一段階とすると、第二段階は周りを眺めて他の団体との共通点は何か、違いは何かと課題を整理し地域の合意を創り出していく。複眼的に物事を捉えていく力が必要です。そして、行政と市民が協働してその先の段階に行きます。

今までの区役所は、本庁の出先として法令に基づいてこなすのが仕事で、区役所が独自で判断することはありませんでした。今は、行政改革で「窓口サービス中心の区役所から地域のまちづくり拠点へ」という具合に、区役所の機能が変わってきています。そこに市民が関わり、行政と協働してやっていく。職員もそれに応えていけるだけの意識と力量を持たなければならない。行政と市民はお互いにいい意味で育ちあう関係にあると思います。

——市民と行政の協働と言われても、いま一つわかりません。大下さんが描く「協働」のあり方の具体的なイメージとはどのようなものですか？

大下 市民だけでできること、行政しかできないことがあって、その間に協働の関係がある。行政のウエイトの高い協働、市民が主体的にやるウエイトが高い協働などいろんな組み合わせがあると思います。これまで市民と行政が協働で行う時は、行政は庶務的な仕事をする事務局という位置づけでしたが、これからは市民と行政が対等の関係で協働する時代です。行政も状況に応じた構想力とコーディネートする力を持たないと、協働は成り立ちにくいでしょう。行政は「公平性、平等性の視点から考えるとこうあった方がいい」と方向性や考え方をきちんと出す。市民団体の特徴がよく出るようにつないでいく力が必要です。そのためには、外へ出て行って、日常的にいろんな団体の方と接触することで課題を共有する。「この部分は行政ができる。この部分は市民が担う」というのが協働のあり方だと思います。市民は自らが主体となって「地域のことは自分たちがやるんだ」という意識を持つようにしなければと思います。



「宮前消防ふれあいフェア」でホース延長を体験する大下区長
(提供写真)

——ところで大下さんにとって学びとはどういうことですか。

大下 学びとは生きること。生きるとは学ぶことかな。私はサラリーマンをしながら地域の中に入っていました。仕事の世界とは違う学びがそこにあり、いろいろな発見や気づきがありその面白さに惹かれたからです。人を惹きつける、人を夢中にさせていくことの中には学びがあります。今まで見えていなかったことが見えてきたり、気づかなかったこと



犬の散歩時に防犯活動をする「宮前ワンクラブ」のパトロール
(提供写真)

に気づいたりする。そうすると、気づかなかった昨日の自分と気づいた今日の自分はもう違っている。これが学びではないでしょうか。面白いと感じて自分が変わっていく、それが新たな学びと活動に結びついていくのだと思います。

——大下さんが好きな言葉は何ですか。

大下 ミヒヤエル・エンデが書いた「モモ」という本があります。その中に「時間とはいのちなのです。いのちはあなたの心の中に住んでいます」（子安美知子訳）というのがあります。この言葉がいいですね。いのちはあなたの心の中に住んでいるということが凄いです。解釈はいろいろあると思いますが、いのちは自分で生きる、単に時間を生きるのではなく、自分でどう生きるか、あなたの心次第だよと、そういう意味だと思って大事にしています。

それから筑波大学名誉教授で遺伝子工学の研究者・村上和雄先生と絵本作家の葉祥明さんが著した「世界は1つの生命からはじまった—サムシング・グレートからの贈り物」という絵本があります。「38億年前に1つの生命が、地球に生まれました。その後、3000万種以上の生き物に分かれ、花も、虫も、魚も、ゾウも、クジラも、人間もできました」と書いてある。「世界は1つの生命からはじまった」というと、広い世界観が得られるような気がして元気がでますね。最近ではこの言葉が凄いなと思います。

——最後に抱負をお聞かせください。

大下 平成17年度に試行で二度行われた「区民会議」が、18年度から本格的に始まります。区民会議は、区民が中心になって地域のことを自分たちの手で解決していくシステムとして位置づけられています。行政と市民の協働においても、区役所への分権という意味からも区民会議を軌道にのせ、役割を果たせるよう全力をあげたいと思います。

大下 勝巳さん（おおした・かつみ）

川崎市宮前区長。1942年和歌山県新宮市生まれ。長年、(社)日本広報協会に勤務。05年4月に政令指定都市初の区長に民間から起用される。川崎市社会教育委員、川崎市新総合計画策定市民会議委員等のほか文部科学省の家庭・地域共同参画推進委員会委員等を歴任。市民活動として82年に「父親家庭教育学級」に参加し、その後、有志で「おやじの会・いたか」を結成するなど地域での活動も豊富。趣味は山歩き。多摩区在住。

藝術文化ロード

このコーナーでは、日本民家園、市民ミュージアム、青少年科学館、岡本太郎美術館の施設を紹介します。それぞれの館の特色や見どころを順次掲載します。今回は生田緑地にある岡本太郎美術館からお届けします。

「第9回岡本太郎記念現代芸術大賞(TARO賞)」展 岡本太郎美術館～3月26日まで

川崎生まれの芸術家岡本太郎は時代に先駆けて、たえず新たな挑戦を続けてきました。そして、太郎の精神を継承し、自由な視点と発想で、現代社会に鋭いメッセージを突きつける作家を見いだすことを目的に、1997年より開催されているのが「岡本太郎記念現代芸術大賞(TARO賞)」です。

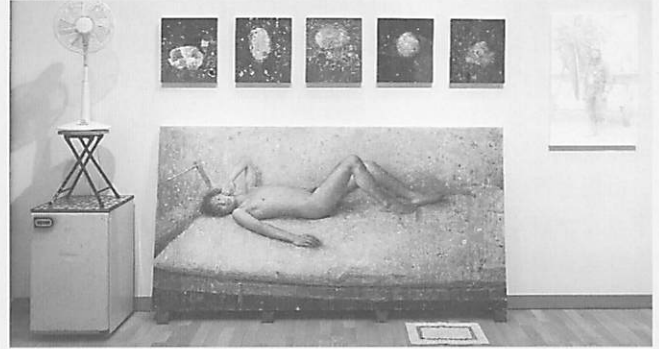
今年で9回目を迎える本賞に、518点の応募があり、11月に行われた第1次審査の結果、21点の作品が入選となりました。さらに、第2次審査(最終審査)により、準大賞1名、優秀賞1名、特別賞3名が決定しました。

岡本太郎美術館では、2000年に開催された第4回から、入選作品の展示を行っています。今年も2月4日から入選作品21点すべてを展示しています。この紙面では、受賞作品5点と作者のメッセージを紹介します。

どうぞ美術館に足を運んで、21世紀における芸術の新しい可能性を探る、意欲的な作品の数々をご覧ください。

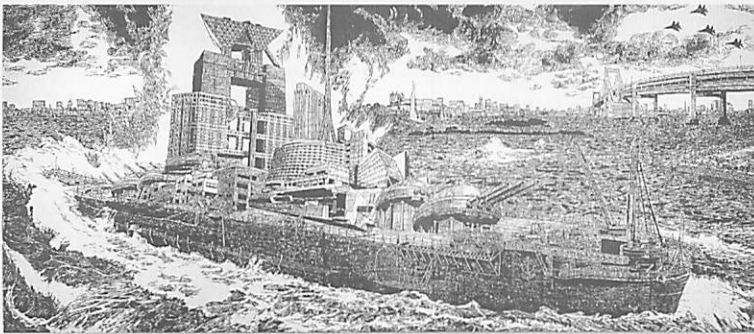
●作家自身による作品解説(ギャラリートーク)

3月4日(土)・12日(日)・26日(日) 午後2時から1時間程度。
当日先着20名。観覧料で参加できます。



準大賞 梅津庸一「銀色の僕」

僕のキモチとか思念の及ばない領域に絵が立つとしたら。それはもう、恐ろしく素敵なことなんだから!



優秀賞 風間サチコ「風雲13号地」

血税と労力を注ぐ程ズレてしまうのが、公共事業の常であろうか? 大鑑巨砲主義の幻のように、勇ましく進水したまま今も漂流している。

特別賞 角文平×田中雄一郎「おかえり江戸城」



江戸城・天守閣をパースペクティブの中で再構築し、時代というパースペクティブの中で再認識することで、現代におけるシンボルそのものの在り方を、この作品で問いたい。

- ◆開館時間⇒9:30～17:00(入館は16:30まで)
- ◆休館日⇒月曜日(祝日の場合は除く)祝日の翌日(3月22日)
- ◆観覧料⇒大人600円、高校・大学生400円、中学生以下・65歳以上無料
- ◆交通⇒小田急線向ヶ丘遊園駅南口より徒歩17分
- ◆問い合わせ⇒☎044(900)9898 Fax044(900)9966
<http://www.taromuseum.jp>



特別賞

まつながあきこ

「青く青く晴れわたる空にも雨は降り」

たとえば。人はみな、自分にしか見えない透明な風船を大切に抱えてる。わたしの風船はとても、大きい。他の人のはもっと、かも知れない。



特別賞 アサノカオリ「あたまがよくなるくすりを飲んだ」

私は頻繁に自画像を描きます。作品の前に立つ誰かと対面した時のことを思い浮かべながら、その瞬間に期待を寄せて描いています。

まち・ひと・多面体

蘇った万福寺人参

「万福寺人参友の会」代表 高橋 清行さん

長さ60~70cm、ゴボウのように長い人参を見たことがありますか。麻生区の万福寺周辺で昭和30年代後半まで生産されていた風味豊かで甘い人参が「万福寺人参(万福寺鮮紅大長人参)」です。麻生区千代ヶ丘に住む高橋清行さんは、生産が途絶えていたこの人参を復活させ普及に努めています。

高橋さんは30年前からこの地に住んでいますが、この「万福寺人参」の存在を知ったのは10年前のこと。「土地開発の直前、この周辺の山や森、石碑、仏像などを写真に撮って残しておこうとあちこち歩きまわっていました。ある農家に立ち寄った時、なんとも微笑ましい女の子が長い人参を持っている写真を見せてもらいました。そこから万福寺人参の種さがしが始まったんです。かつての生産者を何軒も訪ねて上作延の種屋さんにあったので作ってみることにしました」と当時を振り返ります。そのころ、麻生市民館の職員だった岡本剛介さんと知り合い「万福寺人参友の会」を作り一緒に普及・PRを始めました。現在会員は16人、毎年12月初めに品評会と試食会を開いています。

高橋さんは、約60㎡の市民農園を借りていますが、他の野菜は一切作らず「万福寺人参」のみ作っています。そんなことから



ら近所の子どもたちからも「人参おじさん」と親しまれています。畑に子どもたちを連れて行ったことが縁で、4年前から千代ヶ丘小学校他で講師をしています。高学年を対象に月2回、人参や稲のことなど自然環境をテーマに話をしているそうです。いつも笑顔いっぱいの「人参おじさん」は子どもや先生からも大人気です。また、給食にも「万福寺人参」が登場しました。学校独自の献立の日に、22キロの人参を使ってカレーが出来上がりました。

高橋さんは「万福寺人参はどこでも生産できるものではありません。この地の気候風土に適した特産の人参があったということ子どもたちに伝えたい」と話してくれました。

くらし百景

AQ五行歌会

五行歌

片桐たま

私たちは笑い合って
軽やかに手を振り合った
またいつか会えるように
もう二度と会えなくても
想い続けていられるように

会津太郎

どんど焼きの
火が燃え盛る時
少女の前髪に
付いては溶ける
夜の淡雪

岡村隆司

曇った十三夜
と妻は言ったららしい
困ったジイサンや
と僕には聞こえ
それぞれに天を仰ぐ

おにと

高層ビルの
窓から谷間へ
反射する陽光
鋭い破片の日だまり
都会の表

吉田綾乃

白い鼻息が
恥ずかしい
乙女の端くれは
鼻で吸って
口から吐く

下平和雄

ヨタヨタと歩く
老犬の綱を
ご苦労だったねと
優しくにぎる
定年後の主人

井権しづく

下り列車では
だんだん薄く
上り列車は
どんどん濃くなる
わたしの個

水源純

だれかの死に
遭うたび
心に楔を打つようです
繋がりはもう
ここにしかない

*「五行で書くこと」以外は決まりのない五行歌。自分の呼吸とリズムで自由で書けるので、自分の思いのままに表現できます。私たちは「五行歌の会(草壁楯太主宰)」に所属する歌会で、高津市民館で活動をはじめ、楽しく和やかな時間を過ごしています。毎月第四土曜日、十四時~十七時。見学可。問い合わせ ☎〇四四(八五)八七三三 下野

情報コーナー イベントパーク 講座・コンサート他

● 絵本の世界を楽しもう「絵本とともに旅をして」

3月4日(土)13時から、川崎区のプラザ大師。「じゅげむ」「おどるサボテン」などの作者、川端誠さんの講演。先着150人。申し込み受付中。☎(266)3550。

● たちばなコンサート「モーツァルト生誕250年」

3月5日(日)14時開演、プラザ橋。クラリネット三重奏曲やピアノ協奏曲など、初期と晩年の作品を演奏。出演は橋爪恵一(クラリネット)、井上直子(バイオリン)、中山育美(ピアノ)。小学生以上150人。無料。整理券をプラザ橋にて配布中。☎(788)1531の同館。

● 第8回MUZAランチタイムコンサート

3月9日(木)12時10分開演、ミュージア川崎シンフォニーホール。出演は昭和音楽大学のサクソフォン・カルテット。500円。☎(520)0200の同ホール。

● 「オペラ映像鑑賞会」公開

3月16日(木)13時半開始。川崎市国際交流センター。かわさき市民フロンティア創立10周年を記念し一般公開。ドニゼッティのオペラ「連隊の娘」(仏語上演、日本語字幕付き)を大型スクリーンで鑑賞。無料。先着30人。☎・Fax(533)2390の榎本さん。

● 親子で楽しむオルガン課外授業

3月25日(土)26日(日)の各11時と15時開演、ミュージア川崎シンフォニーホール。3人のオルガニストの演奏とお話。4歳~中学生1200円、大人1800円。各回545席。☎(520)0200。

● 中村正義「100枚の顔」展

3月3日(金)~5月28日(日)まで。麻生区細山の中村正義の美術館。正義の自画像ともいふべき「顔」の連作を展示。一般500円、大高生300円、小中学生200円。開館日は金~日と祝日の11時から17時。☎(953)4936。

● メイド・イン・カワサキ現代美術賞展

3月11日(土)~4月2日(日)まで、川崎市市民ミュージアム。川崎の過去・現在・未来を表現した入選作品を展示。一般600円。学生400円。65歳以上と中学生以下は無料。開館時間は9時半~17時(入館は16時半)。休館日は月曜と3月22日(木)。☎(754)4500。

● ミニ画廊スナック「琴」展示 ①つるしびな ②写真 ③俳画

①は3月11日(土)まで、熊坂和子の作品②3月11日(土)~4月1日(土)まで、中込グループの風景写真③4月1日(土)~15日(土)まで、漆原一夫の作品。作品の展示は無料。場所は幸区鹿島田。日曜定休。☎(544)0507。

● ①わくわく実験ショー ②ガリレオ工房科学実験教室

①は3月11日(土)「超低温のふしぎな世界」。②は3月25日(土)「まるいもの大集合」。東芝科学館。時間は①②とも10時と13時半。対象は①は親子②小学3年~中学生。教材費は①無料②500円。☎(549)2200の同館。

● 玉川大学公開講座

3月開講の「自動体外式除細動講座」「小児救急法」「成人救急法」「生き物ウォッチング」など8講座の受講生を募集中。受講料は5000円~25000円。詳細は☎042(739)8895の同大学継続学習センター。

● 川崎市立労働会館の講座

①簿記3級検定試験準備②宅地建物取引主任者資格試験準備

①は4月13日~5月29日の月・木曜18時半から、全12回。先着40人。受講料11000円、教材費3000円。②は4月14日~9月5日の火・金曜18時半から、全27回。先着60人。受講料35000円、教材費6000円。☎①②とも3月26日(日)9時から電話で。☎(222)4416の同館。

● かわさき市民フロンティア10周年記念講演会

4月16日(日)14時半開演、新百合21ビルホール。講師は北里大学教授で解剖学者の養老孟司氏。当日先着450人。無料。☎(733)6626のかわさき市民アカデミー事務局。

● かわさき市民フロンティア10周年記念朗読会

4月22日(土)13時半開演、新百合21ビルホール。女優の渡辺美佐子氏の朗読とトーク。ひまわりの会の朗読など。無料。当日先着200人。☎(987)7581の宮蔭さん。

● アカデミー活動交流フェスタ

3月18日(土)10時~15時、川崎市生涯学習プラザ。無料。かわさき市民アカデミーの受講生・OB、中原区の市民団体の交流。活動紹介パネル展示、舞台発表(歌、舞踊、演奏等)、講演会、疑似体験など催し物多数。☎(733)6626のかわさき市民アカデミー事務局。

川崎市生涯学習プラザ 施設貸館のご案内

川崎市生涯学習プラザは、学習活動の場として利用いただく通年開館の施設で、高校生以上で構成された団体に貸し出しています。講演会、会議、研修、サークル活動、ダンス、卓球、合唱、演奏などにご利用ください。(年末・年始と施設点検の時は休館)

◆施設…会議室4室(円卓2室)・大会議室1室・和室・多目的ルーム・フィットネスルーム

◆交通…JR南武線・東横線武蔵小杉駅から徒歩12分

◆申し込み…会議室は使用する3ヵ月前の同じ日から使用の3日前まで受け付け。多目的ルーム・フィットネスルームは使用する月の3ヵ月前の月初(平日)に抽選。

◆問い合わせ…料金及び詳細については☎044(733)5560

※ホームページ<http://www.kpal.or.jp>に「施設利用案内」がありますのでご覧ください。

今月の表紙

1927(昭和2)年の作。紙本彩色。28.5×38.5cm。川崎市市民ミュージアム所蔵。

『肉筆漫画開国六十年史図絵』は1926(昭和元)年に中央美術会から刊行された。一平は「カフェとモダン」とこの絵の2図を描いている。

夏目漱石との交流は大正3年に始まる。『探訪画趣』出版のため、漱石に序文を依頼に行ったのである。以後、大正5年12月に漱石が没するまで2人の親交が続く。これにより、一平は数々の漱石像を生み出す。